

カナダ（オンタリオ）で日本語で育つ子どもたちの学習の継続を支える試み

三井晶子 York University, 青木恵子 Queen's University

新型コロナの影響で現地校が一斉に休校した。補習校・継承日本語学校も休校し、オンラインへ移行するか否か学校が対応に手間取る間、子どもたちは学びが途絶え、交流の場を失った。本発表では、学びの継続のために私たちが行った実践例と、育児と学びを支えるウェブサイト「日本語で育てよう！」を紹介した。

実践例1は、保護者アンケートからオンライン授業実施までの流れと、Padletを用いた家庭での学び支援を紹介、実践例2では二校をつないだネット上ゲーム大会を紹介、実践例3では、休校中の対策として保護者有志が行ったオンライン・コミュニティ作りと Flipgrid を用いた学びの実践「朝の会」を紹介した。

このロックダウンは、学校に所属する意味を再考する機会となった。子どもたちの学びは、学校に行き行って授業を受けるだけ、単に教材から知識を得るだけではなく、人と人との交流があるからこそ刺激を受け、次なる動機となって成長が持続していくのではないだろうか。ことばの学習も言語のコミュニティで育まれる社会的な活動である。今はみな孤立しがちであり、オンラインの強みを生かして子どもたち・保護者・教師や支援者がつながる必要があると改めて考えた。

最後にウェブサイト「[日本語で育てよう！](#)」を紹介した。子どもの学びを長期的な視点で捉え、段階的に必要な情報が得られるよう、親が自分のことばで子育てする大切さを説明する資料や年少者を中心とした日本語教育機関リスト、学習の励みになるイベントなどを掲載した。またメーリングリストも用意し、家庭からの相談や学校間交流の際のマッチング等に対応する。各地での日本語学習の継続を支援できるよう願っている。意見交換会では次のような質問や要望が出た。

Q：Quick, Draw!はどのようにゲームとして使ったのか。

A：まず Zoom に慣れた生徒に画面共有してもらい、ペアでお題を読んでアイデアを出し合い、OK を押して 20 秒でクリアするのを全員が見守った。

Q：日本語で育てようのリンクを学校のウェブサイトに掲載することは可能か。

A：ぜひお願いしたい。その場合[こちらまで](#)。日本語教育機関リストに掲載させていただけるカナダ国内の学校からもご連絡をお待ちしている。

Q：カナダの日本語学校間での交流（発表会やコンテストなど）がもっと盛んになるといい。そのような横のつながりを実現できるか。

A：あるとよい。今後考えていきたい。

#### 参考文献

カルダー淑子（2020）「日本語教育推進法の運動から生まれた連携-海外継承日本語部会の今後を考える-」2020年度母語・継承語・バイリンガル教育学会研究大会、海外継承日本語部会企画配信資料

三井晶子・青木恵子・国実久美子（2013）「オンタリオ州における日本語教育・年少者グループ」教育機関調査: CAJLE2013年次大会オンタリオ部会特別企画